

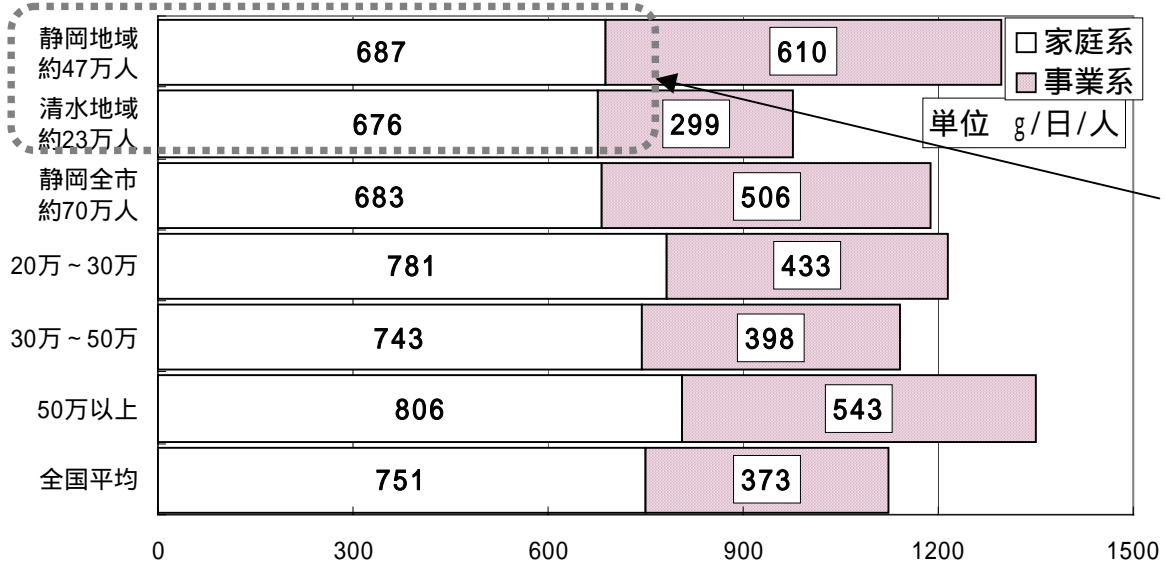
# 静岡市一般廃棄物処理基本計画の不思議

2007年10月14日 「ゴミ・プラ静岡」市民ネットワーク 壺阪道也

「静岡市一般廃棄物処理基本計画 概要版 平成17年3月」(総ページ数16ページ)(以下 概要版)の3ページに以下の文章とグラフが掲載されている。(資料1)

資料1 「概要版」3ページ下段より

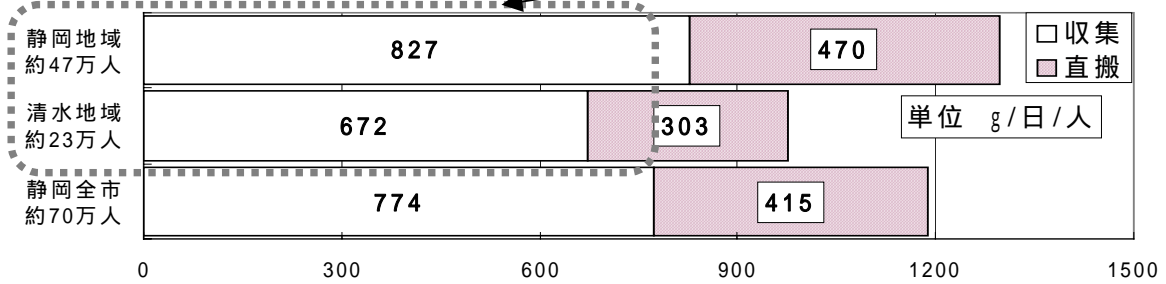
本市は人口規模50万人以上規模であるため、そのデータで比較すると、家庭系及び事業系ともに全国平均以下となっています。また、地域別に見ると、**静岡地域は人口規模が30～50万人規模とすると、家庭系は全国平均以下であるのに対して、事業系が約210g/人日多くなっています。**一方、清水地域は人口規模が20～30万人規模とすると、家庭系及び事業系ともに全国平均を下回っています。



静岡・清水のごみ量が同じ？

資料2 「計画」数量より作成

## 本当は静岡の方が清水より多いはずだけど！？



静岡・清水のごみ量が違うことを知る私は違和感を感じ、良く調べてみると本文「静岡市一般廃棄物処理基本計画」(総ページ数139ページ)(以下 計画)の26ページ、27ページのごみ量のデータがあり(資料3)、その数字から一人一日あたりのごみ量をそれぞれ「ごみ量 t ÷ 人口 ÷ 365 日 ÷ 1,000,000 (一人一日あたりのごみ量 g/日人)」で計算した(資料4)。

資料3

### 静岡市平成15年度ごみ量(計画26、27ページより)

		静岡地域	清水地域	本市
収集	人口	469,449	233,701	703,150
	可燃	122,470	48,305	170,775
	不燃粗大	4,850	1,768	6,618
	資源ごみ	14,214	7,223	21,437
	その他		28	28
持込	可燃	69,364	20,418	89,782
	不燃粗大	11,223	3,962	15,185
	資源ごみ		1,427	1,427

## 静岡市平成15年度一人一日あたりごみ量

家庭ごみ、事業ごみの区別は正確には難しいところがあるが、「計画」29ページ(資料5)のように**収集ごみ**、**家庭ごみ**、**直接搬入ごみ**、**事業系ごみ**と定義して本来の静岡・清水地域の数字から平成15家庭系・事業系ごみ量のグラフを作成したのが資料2のグラフである。

資料4

		静岡地域	清水地域	本市	
合計		g/人日	1,296.3	974.6	1,189.4
収集	可燃	g/人日	714.7	566.3	665.4
	不燃粗大	g/人日	28.3	20.7	25.8
	資源ごみ	g/人日	83.0	84.7	83.5
	その他	g/人日		0.3	0.1
直搬	可燃	g/人日	404.8	239.4	349.8
	不燃粗大	g/人日	65.5	46.4	59.2
	資源ごみ	g/人日		16.7	5.6
人口		人	469,449	233,701	703,150

### 資料5 <静岡市一般廃棄物処理基本計画(以下計画) 29ページ>

なお、本計画におけるごみに関する用語の定義は、図1-3に示すとおりとします。...**家庭系ごみ**においては、**主体をステーション等から収集されるものとして、これを「収集ごみ」とし、事業系ごみにおいては、主体を直接、中間処理施設へ持ち込まれるものとして、これを「直接搬入ごみ」とし、...**



### <静岡・清水の家庭系ごみ量がほとんど同じ(資料1)とは何なのだろうか?>

静岡市は、平成16年に静岡市駿河区東新田にある約一千人が住む高層集合住宅で、可燃ごみ量の調査を行い、それにより、一人一日あたり「519.3g/人日」という数字を割り出している。(資料6)理由はどうあれ、その数字を一人一日あたりの静岡地域、清水地域の家庭系収集可燃ごみ量と推定している。逆に、収集可燃ごみの中で静岡地域195.4g/人日、清水地域47.0g/人日は事業系ごみであると根拠もなく推定していることにもなる。(資料7)

### 資料7 収集可燃519.3g/人日が家庭系だった場合の事業系ごみ量一人一日あたりの原単位

		静岡地域	清水地域	本市	
収集可燃	家庭系	g/人日	519.3	519.3	519.3
	事業系	g/人日	195.4	47.0	146.1
	合計	g/人日	714.7	566.3	665.4

収集可燃ごみの中の事業系のごみ量を推定するのはかなり難しいと思われるが静岡地域は、事業系

の可燃ごみは、45L167円・20L78円の有料になっている。その販売数量から、一袋45Lに3kgの可燃ごみが入っていると仮定（実際はせいぜい2kgくらい）しても、一人一日あたり「30.2g/人日」である。（資料8）「195.4g/人日」はその6倍以上である。緑の指定袋に使わないで不法に事業系ごみを廃棄している事実は認めるが、これほどまでだろうか？

**資料8 平成15年度事業系指定容器からのごみ量の推定**  
45L=3kg、20L=1.5kgとして

	販売数量	ごみ量	単位
45L	1,713,070	5,139,210	kg
20L	22,170	33,255	kg
	合計	5,172,465	kg
静岡地域人口		469,449	人
一人一日あたり		30.2	g/人日

資料6 「計画」 33ページ上段より

**(2) 収集可燃ごみ排出量調査の概要**

静岡地域の一般家庭を対象に平成16年7月6日及び7月9日の2日間で、収集可燃ごみ排出量の調査を実施しました。その結果を表1-10に示します。2日間の合計で収集可燃量が4,260kg、対象人数が1,172人、貯留日数が7日より、収集可燃ごみ排出量原単位は519.3g/人日と推計できます。

表1-10 収集可燃ごみ排出量調査結果

調査日	収集可燃量 (kg)	対象人数 (人)	貯留日数 (人)
7月6日	2,320	1,172	4
7月9日	1,940	1,172	3
小計	4,260	-	7
収集可燃ごみ原単位		(g/人日)	519.3

資料9 「計画」 33ページ上段より

**(3) 収集可燃ごみ排出量以外の家庭ごみ排出量の推計**

ごみの分類の定義でも示したとおり、収集ごみについては家庭系ごみが主体であると想定できます。そのためここでは、収集ごみのうち、不燃・粗大ごみ、資源ごみ、その他ごみについては一般家庭からのみ排出されたものと想定します。また、直接搬入ごみのうち、家庭由来のものと想定される可燃ごみ及び不燃・粗大ごみを、家庭系の直接搬入量とします。先述の想定を基に、平成15年度実績から家庭系ごみの収集可燃ごみ以外の排出量原単位を推計すると、表1-11に示すとおりとなります。

表1-11 家庭系ごみの収集可燃ごみ以外の排出量原単位の推計結果

			静岡地域	清水地域	本市
収集	不燃・粗大ごみ	(t/年)	4,850	1,768	6,618
	資源ごみ	(t/年)	14,214	7,223	21,437
	その他ごみ	(t/年)	0	28	28
直搬	可燃ごみ	(t/年)	4,413	833	5,246
	不燃・粗大ごみ	(t/年)	5,187	3,523	8,711
収集可燃以外の家庭系ごみ量		(t/年)	28,664	13,376	42,040
人口		(人)	469,449	233,701	703,150
収集可燃以外の家庭系ごみ原単位		(g/人日)	167.3	156.8	163.8

直搬ごみの中で家庭系とされた数量

この「ごみ量の推定作業」はもっとややこしい。収集ごみ 家庭ごみ、直接搬入ごみ 事業系ごみと定義を「収集だけ変形したのが、片手落ち」と考えたのか、直接搬入ごみの中から家庭系ごみを推定している。(資料9)どのように直搬ごみ量が資料10のように区別されたかの説明はない。

**資料10 直接搬入ごみの家庭系・事業系ごみ区別推定の内訳 右表が一人一日あたりの原単位**

			静岡地域	清水地域	本市
可燃	家庭系	t/年	4,413	833	5,246
	事業系	t/年	64,951	19,585	84,536
	計	t/年	69,364	20,418	89,782
不燃	家庭系	t/年	5,187	3,523	8,711
	事業系	t/年	6,036	1,866	7,901
	計	t/年	11,223	5,389	16,612
人口		人	469,449	233,701	703,150

			静岡地域	清水地域	本市
可燃	家庭系	g/人日	25.8	9.8	20.4
	事業系	g/人日	379.1	229.6	329.4
	計	g/人日	404.8	239.4	349.8
不燃	家庭系	g/人日	30.3	41.3	33.9
	事業系	g/人日	35.2	21.9	30.8
	計	g/人日	65.5	63.2	64.7
人口		人	469,449	233,701	703,150

こうして、「推定」された数字「519.3g/人日」と「167.3g/人日」を使って静岡地域の家庭系ごみ排出量原単位「686.7g/人日」の数字が創られた。

**資料11** 「計画」  
34ページ中段より

表1-12 家庭系・事業系ごみ排出量原単位の推計結果

		静岡地域	清水地域	本市
1人1日あたりのごみ排出量 (g/人日)		1,296.3	974.6	1,189.4
家庭系ごみ排出量原単位	収集可燃 (g/人日)	519.3	519.3	519.3
	収集可燃以外 (g/人日)	167.3	156.8	163.8
	小計 (g/人日)	686.6	676.1	683.1
事業系ごみ排出量原単位 (g/人日)		609.7	298.5	506.3
(参考)人口 (人)		469,449	233,701	703,150

静岡地域で実施した収集可燃ごみ排出量調査の結果を、清水地域でも同様として使用します。

**<何のためにこうした推定がされたのか？>**

「静岡市一般廃棄物処理基本計画 概要版 平成17年3月」の第2部は ごみ発生量 家庭系・事業系ごみ排出量原単位の推計結果 再生利用量と再生利用率 中間処理による売電収入と発電量 ごみ処理基本計画の基本理念と基本方針 ごみ発生量等の削減目標 発生・排出抑制計画 資源化計画 収集運搬計画 中間処理計画 最終処分計画と構成されている。

この推定グラフは で「...静岡地域は家庭系では全国平均以下...」と強調するために使われている。(事実は、全国標準のデータ比較すれば、全国平均よりかなり多い)そして、 の「10%以上増えても20%の削減」という不思議な「削減目標」につながり、最後の処理計画の根拠を形成する。

平成16年「758.6t/日」の処理量が平成28年「809.9t/日」のように7%増の処理量の予測が「計画」86ページ書かれている。

**資料12** 「概要版」7ページ下段より

		平成15年度 (現状)	平成31年度 (現状のまま)	平成31年度 (削減目標)
収集 ごみ量	(t/年)	177,421	202,775	182,498
	H14*推計からの削減率(%)	-	23%増	10.0%
資源ごみ量 (t/年)		47,862	46,595	46,595
直接 搬入量	(t/年)	106,394	158,191	126,553
	H14*推計からの削減率(%)	-	-	20.0%
ごみ 発生量	(t/年)	331,677	407,561	355,646
	H14*推計からの削減率(%)	-	72%増	12.7%
再生利用率(%)		16.1%	18.4%	22.4%
最終 処分量	(t/年)	42,723	25,295	8,833
	H15からの削減率(%)	-	40.8%	79.3%

ごみ増量計画で、清掃工場建設の根拠にしようというのは、ごみ減量という時代に逆行した計画である。しかし、それも間違っていない「ひとつ考え方」であるとは言える。しかし、そのために静岡のごみ量を全国平均以下と見せかけるためか？データの推定により事実のねじ曲げは許されるのだろうか？